

〔佐伯市民大学〕講座の目的

佐伯市内外在住問わず、地域創生の学びに関心を持つ人々を対象に、自然と人と地域共同体のかかわりに関する思想や哲学を基盤とし、「さいき 7 つの創生」にかかわる分野〔自然・生活環境〕〔生活基盤〕〔保健医療福祉〕〔教育文化〕〔産業振興〕〔まちづくり〕〔地域活性化〕を総合的に学習する講座を実施。内発的で持続可能な地域の発展に寄与する価値観と行動力を持つ人材育成。更に今期は「ローカリゼーション」をテーマに、地域に埋もれた宝を見出し、地域力を再発見する学びを目的とします。

講座の構成

トータルテーマ
「地元で豊かに生きるためのLocalizationを学ぶ」

□ 講座（令和8年1月～令和9年9月）

地域や社会の課題について、持続可能性を視野に様々な講師から学びます。テーマは、仕事・食べ物・消費・ファイナンス・エネルギー・コミュニティ・教育・文化など。

□ プロジェクト研究（令和9年10月～令和10年3月）

日本文理大学の杉浦嘉雄名誉教授をアドバイザーに、これまでの学びを活かした行動を実施する期間です。

講座を運営する「地元学の会」

地元学の会は、水俣で生まれた「地元学」の思想を基に、市民大学講座を運営する団体として2020年に結成しました。「ないものねだりをやめ、あるものを探して地域の持つ力、人の持つ力を引き出す。あるものを新しく組み合わせ、ものづくり、生活づくり、地域づくりに役立てていく」という思想のもと、風土と暮らしの成り立ちを通して、その物語という個性を確認。大地と人と自分に対する信頼を取り戻し、自分でやる力を身につけていくための学びの場です。

Localizationって？

毎日のくらしに必要なものやサービスを、近い地域で得られるようにしよう、というのがローカリゼーションです。遠くの顔も分からない誰かがつくったものに頼らず、少しのエネルギーでより安全で健康に良いものを手にする。すると近くに仕事が生まれ、地域の町や村がにぎわい、楽しくなる。やがて若者や子どもが増えていく。その一方、グローバリゼーションは大量のエネルギーを使って、地球の裏側から冷凍・冷蔵・包装した食べものを運んでくる。森林を切り開き農場をつくり、危険な農薬や化学肥料を使ったりして。儲けや効率重視の社会のあり方から経済を身近なところに戻し、地域力を高めていきましょう。

参加費

- 1 講座ごとの場合 …… 1,000 円(税込)
→ 会場にて現金支払い
- 前期分 前納（6 講座） …… 5,000 円(税込)
- 後期分 前納（5 講座+研究プロジェクト 6 講座）
 …… 10,000 円(税込)
→ 指定口座へ事前入金

※振込先は申込後にお知らせします。
※高校生以下の参加は無料です。
※当日の申込は席に余裕があれば可能です。

お申込

Google フォーム

QRコード



お問合せ

講座に関する詳細は、こちらから

FaceBook



Instagram



Mail
saiki.jimotogaku@gmail.com

Overall theme of the course 地元で豊かに生きるための Localizationを学ぶ

佐伯市民大学開講に寄せて

地元学の会 コモン（文化人類学者） 辻 信一

世界中で今、ローカリゼーションへの流れが強まっています。それはグローバル化によって骨抜き化された地域経済と、空洞化が進んだ地域コミュニティを、草の根から再生させようという試みです。面白いことに、大都市から遠く、一見不便な地域、グローバルから取り残され、立ち遅れたかに見えた地域の方が、かえって、この地域再生の動きがより活発らしいのです。さらに、グローバル

経済システムが気候変動の主要因となってきたことが明らかになるにつれ、経済の再地域化、特に食をめぐる経済のローカリゼーションが、世界中で喫緊の課題となってきました。

そのモデルの一つとなりうる場所、それが佐伯、そして大分県南部だと、ぼくには思えるのです。



講座日程 & 講師

今回はテーマに沿ったゲスト講師と、地元で活動をしているローカル講師が登場。新たな学びと共にリアルを知ること、己に落とし込もう

2026年

ローカリゼーションは今、ここから始まる

'26年1月10日(土) 13時～
保健福祉総合センター 和楽 大研修室

辻 信一 (つじ・しんいち)
文化人類学者、明治学院大学名誉教授
環境=文化NGOナマケモノ倶楽部 代表



1977年北米に渡り、カナダ、アメリカの諸大学で哲学・文化人類学を学び、1988年米国コーネル大学で文化人類学博士号を取得。1992年より2020年まで明治学院大学国際学部教員として「文化とエコロジー」などの講座を担当。またアクティビストとして、「スローライフ」、「ハチドリ」のひとしずく、「キャンドルナイト」、「しあわせの経済」などの社会ムーブメントの先頭に立つ。『スロー・イズ・ビューティフル』、『常世の舟を漕ぎて』『ナマケモノ教授のムダのてつがく』など著書多数。映像作品に『アジアの歌智』(DVDブックシリーズ、現在8巻)など。最新刊は、『サティッシュ先生の夢見る大学』(ゆっくり堂)

映画「幸福の経済学」上映 (68分)
今、問われる幸せとは？真の豊かさとは？人や自然との繋がりを取り戻す暮らし方を探るドキュメンタリー。グローバル化からローカリゼーションへ。



世界中に広がるローカリゼーション運動のバイオニア、ヘレナ・ノーバーク・ホッジャらが、人と自然とのつながりを取り戻す「ローカリゼーション」を提唱する。(2010年制作)

～2028年
プロジェクト研究
'27年10月～'28年3月

杉浦 嘉雄 (すぎうら・よしお)
日本文理大学 名誉教授

食、人権、環境、開発を問い直す
'26年2月1日(日) 14時～
東地区公民館 集会室

印 鑰 智哉 (いんやく・ともや)
OKシードプロジェクト 事務局長
ドキュメンタリー映画『種子 みんなのもの？それとも企業の所有物？』(2018年) 日本語版企画・監訳。『命を守る食卓』(宝島社2024)『世界』(岩波書店)などで記事を執筆。世界の食と農の問題を追う。



小山 敬晴 (こやま・たかはる)
大分大学経済学部准教授、博士(法学)
お問い合わせください！プロジェクト 共同代表

地球を幸せな星にするために～私にできること
'27年1月17日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室

中村 隆市 (なかむら・りゅういち)
ウインドファーム 代表取締役
大地再生ウェルビーイング研究所 代表理事
19歳で水俣病と出会い、公害・環境問題に関心を持ち、無農薬で米と野菜をつくり、有機農業の普及と環境保護運動に取り組む。80年代から中南米やアジアの農民と提携し、有機コーヒーや紅茶のフェアトレードに取り組む。



大倉 岳 (おおくら・たけし)
reuseðicalstore
KURASHIKA (クラシカ) 代表

面識経済で地域活性化を目指す
'26年4月12日(日) 14時～
さいき城山桜ホール 小ホール

山崎 亮 (やまざき・りょう)
studio-L 代表
関西学院大学建築学部教授
コミュニティデザイナー、社会福祉士
地域課題を住民たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクト多数。『面識経済』(光文社)



平川 摂 (ひらかわ・おさむ)
株式会社 ベース 代表取締役
元さいきあまべ食べる通信 発行人編集長
さいきあまべ食べる商會 共同代表

リファイニング建築とは何か
'27年 春開催予定
東地区コミュニティセンター 集会室

青木 茂 (あおき・しげる)
建築家、博士(工学)、一般社団法人
リファイニング建築・都市再生協会 理事長
1977年 アオキ建築設計事務所 設立。1990年 株式会社青木茂建築工房 設立。2007年 東京大学大学院工学系研究科にて博士号取得。著書に『建築再生 未来へつなぐリファイニング建築』(建築資料研究所 2019) ほか多数。



まちづくりユニット DOCRE (ドークリ)
後藤好信／佐伯市役所所属 一級建築士
河野功寛／一般社団法人 KIISA 代表理事

共感資本社会の実現を目指して
'26年6月7日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室

新井 和宏 (あらい・かずひろ)
(株) eumo 代表取締役 (共同代表)
(株) 温泉資源庁 代表取締役 (共同代表)
大病とリーマン・ショックをきっかけに、それまで信奉してきた金融工学、数式に則った投資、金融市場のあり方に疑問を持ち、以来2つの会社を創設する。著書『共感資本社会を生きる』(共著・ダイヤモンド社) 他多数。



吉田 俊郎 (よしだ・しゅんろう)
NPO法人 トランジション・ジャパン
共同代表理事

地域経済の好循環を創る
'27年5月8日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室
鈴木 倂介 (すずき・ていすけ)
小田原箱根商工会議所 会頭
(株) 鈴廣蒲鉾本店 取締役相談役

上智大学経済学部卒。'81～'91年、米国 LA にて蒲鉾普及に尽力。帰国後、鈴廣に経営参画。一般社団法人エナジーから経済を考える経営者ネットワーク会議代表理事、気候変動イニシアティブ設立メンバー他兼任。



山本 康博 (やまもと・やすひろ)
株式会社 山作 常務取締役
令和7年度 佐伯商工会議所 青年部 会長

地域ミュージアムと文化の掘り起こし
'26年9月6日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室

赤坂 憲雄 (あかさか・のりお)
民俗学者
元 福島県立博物館 館長
東京大学卒。著書に『異人論序説』(ちくま学芸文庫)『境界の発生』(講談社学術文庫)『東北学 / 忘れられた東北』『岡本太郎の見た日本』『象徴天皇という物語』(岩波現代文庫)『武蔵野をよむ』(岩波新書)『ナウシカ考』(岩波書店) など。



矢野 大和 (やの・たいわ)
鷹島神社 宮司

ローカルな食を見直そう
'27年7月4日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室
島村 菜津 (しまむら・なつ)
ノンフィクション作家

東京藝術大学・芸術学科卒。2000年『スローフードな人生!』(新潮社)でイタリア発のスローフード運動を日本に紹介しベストセラーとなる。近著に『世界中から人が押し寄せる小さな村 新時代の観光の哲学』(光文社)。



山崎 誠 (やまさき・まこと)
臼杵ひやくすた実行委員 代表
臼杵ほんまもん農産物・有機 JAS
認証農家「yomoyamaya」

芸術の向かう先にある風土
'26年11月1日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室

小野 正嗣 (おの・まさつぐ)
作家、フランス文学者
早稲田大学文化構想学部 教授
'01年『水に埋もれる墓』で第12回朝日新人文文学賞受賞。'02年『にぎやかな湾に背負われた船』(朝日文庫)で第15回三島由紀夫賞受賞。同年、第1回東京大学総長賞受賞。'13年、早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞受賞。'15年『九年前の祈り』(講談社文庫)で第152回芥川賞受賞。



桑門 超 (くわかど・ちょう)
宗教法人 法輪山 善教寺 住職
学校法人 ルンビニこども園
理事長・園長

2027年

人を育む食と語り
一食べものがたりの実践からー
'27年8月1日(日) 14時～
東地区コミュニティセンター 集会室

森 千鶴子 (もり・ちづこ)
地域支援ライター、福岡教育大学
非常勤講師、福岡市福祉活動支援員

農業や食の専門誌等に寄稿しながら、九州を中心に農山漁村を訪ね歩く。各地の生活文化を記録し食の伝承をライフワークとしながら、地域づくりの支援、特産品の開発や都市農村交流の支援等も行う。著書多数。



柴田 真佑 (しばた・しんすけ)
ボランティアグループ「暮らしつなぎ隊」代表
復興サポート食堂「志縁や」代表
食育サポートおおいだ 代表
佐伯市弥生防災士会 代表